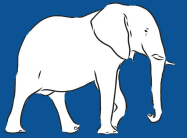


日本とラオスの教育学部生による 協働プロジェクトCoCoKa(コロナと心と体)



実施者：保体/野外(八木,谷林,吉村,中野), 特支(高砂),もの技(松崎)+ラオス国立大学生

目的：コロナ禍の海外の児童生徒の生活や心身の健康状態等を**知る**とともに、その改善のための**教材開発・実践**、成果と課題の**共有**を通して、国際的な視野で子ども教育や健康の問題に取り組むことのできる能力を高める。

活動期間：7月-11月 (①準備：7-8月、②③④実施：9月(ラオス渡航)、⑤報告：11月)

	目的/内容	方法
準備	①教材開発&現地事情 (知る)	勉強会 (週1回) ・心：メンタルヘルスマネジメント ・体：なわとび等
実施	②現状把握(知る)	学校・市場見学
	③教材作り(作成)	信大生とラオス国立大学の教育学部生等との協働
	④授業実施(実践)	現地の小学校・中学校での授業実践
報告	⑤報告会(共有&深い学び)	学内外で成果と課題を共有

期待する成果：

- ・コロナ禍におかれた開発途上国の子どもたちの教育や健康問題の実状を体験を通して理解する。
- ・ラオスの子どもたちの実状に即した教材が開発・実施され、その成果と課題が明らかになる。
(子どもたち自身が継続的に健康を維持する取組みの一助となる)
- ・国外の教育や子どもの健康問題に興味関心を持つ人が増える。